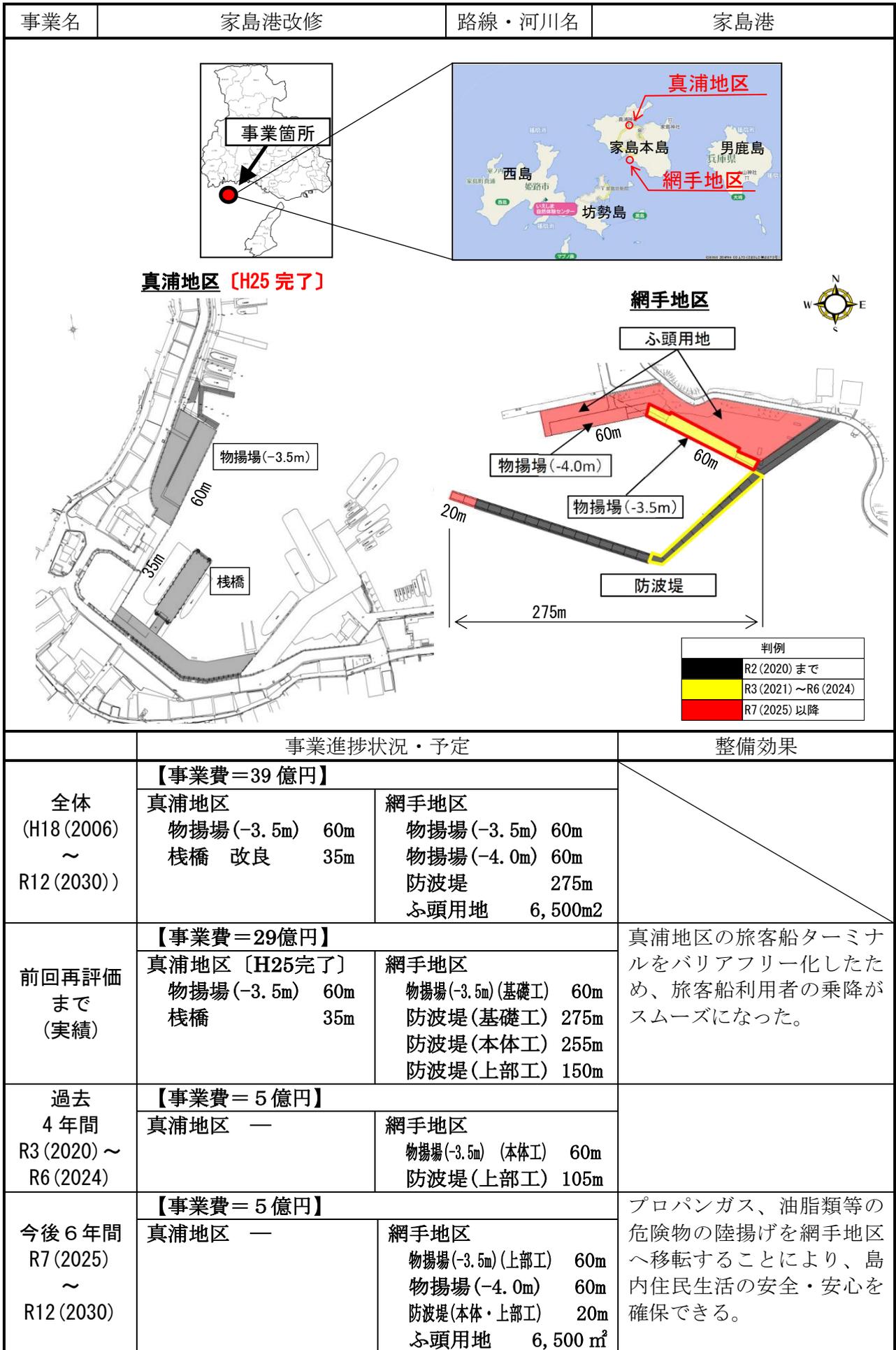


令和7年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

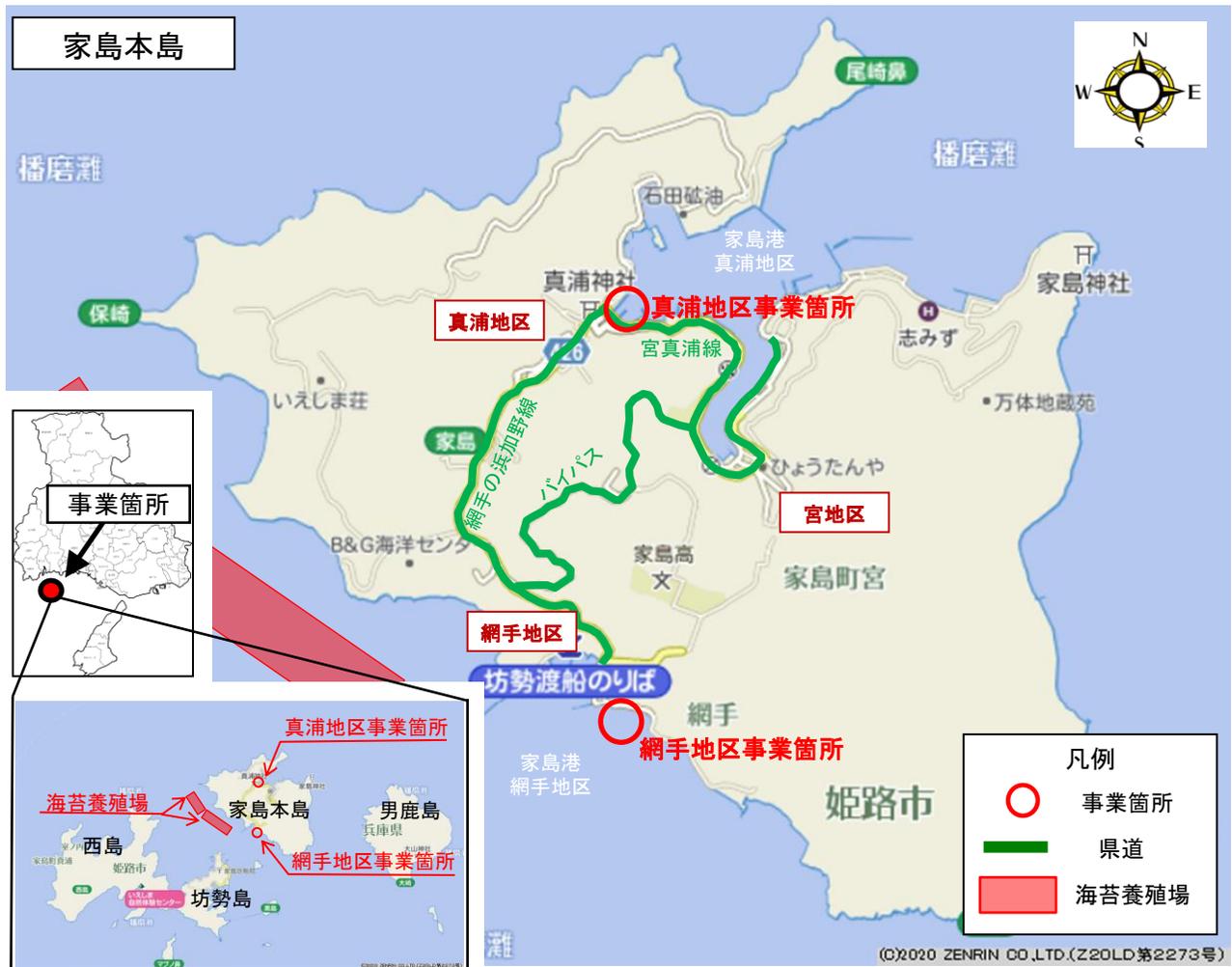
部課室名	土木部 港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 前田 直昭 (港湾整備班長 久米 秀和)	内線	75335 (75348)
事業種目	港湾事業	新規評価年度	平成17(2005)年度	現計画	前回評価時点
事業名	家島港改修	事業採択年度	平成18(2006)年度	総事業費	39億円
		着工年度	平成18(2006)年度	内地地補償費	一億円
		再評価年度	平成27(2015)年度 令和2(2020)年度	完成予定年度	令和12(2030)年度 令和7(2025)年度
事業区間	姫路市家島町	進捗率 (用補進捗率)	87% (—%)	82% (—%)	
		残事業費	5億円	6億円	
事業の目的			事業内容 () 前回評価時点		
離島において、港は島民の生活や産業活動を支える重要な役割を担っている。本事業では、安全・安心な離島航路の確保及び水域利用の適正化のため、真浦地区の旅客船ターミナル周辺の再整備と取扱貨物の一部を移転する網手地区の施設整備を行い、島民生活の向上、産業及び観光の活性化を図る。また、兵庫県地域防災計画に基づき真浦地区の物揚場(-3.5m)を耐震強化することにより災害時の輸送拠点として活用する。			真浦地区 物揚場 (-3.5m) 改良 棧橋 改良 網手地区 物揚場 (-3.5m) 新設 物揚場 (-4.0m) 新設 防波堤新設 ふ頭用地	延長 60m (60m) 延長 35m (35m) 延長 60m (60m) 延長 60m (60m) 延長 275m (275m) 6,500㎡ (6,500㎡)	
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	真浦地区のターミナル周辺の再整備が完了したことにより、旅客機能の利便性が大きく向上したが、貨物機能の網手地区への移転が残っていることから、網手地区の整備による物揚場及びふ頭用地の早期利用が望まれている。				
	【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ①事業費の増加（4億円） 物価上昇による資機材費及び労務費の上昇による工事費の増加。 ②事業期間の延伸（5年） (ア) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い関係者調整に時間を要したため、事業期間を2年延伸。 (イ) 地元漁協との調整により、物揚場(-3.5m, -4.0m)の本体工に用いるコンクリートブロックを設置する前に製作ヤードで各々1年存置する必要が生じたため、事業期間を2年延伸。 (ウ) ふ頭用地の施工方法（埋立土砂の投入方法）の見直しに伴い、事業期間を1年延伸。				
進捗状況	①真浦地区は平成25(2013)年度に事業を完了した。 ②網手地区は平成20(2008)年度に防波堤工事に着手し、現在までに防波堤275mのうち約255mが完了している。物揚場(-3.5m)は本体工までが完了しており、現在は背後のふ頭用地の埋立に着手している。物揚場(-4.0m)は令和9年度より本体工（製作）に着手予定。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (R2年度再評価)	【審査会意見】 継続妥当		【対応方針】 —		
(1)必要性	①真浦地区では、取扱貨物の一部にプロパンガス、油脂類等の危険物が人口密集地で陸揚げされている。網手地区を整備して、危険物等の荷役を移転し、住民生活の安全・安心の向上を図る必要がある。 ②兵庫県地域防災計画に基づき真浦地区の物揚場(-3.5m)を耐震強化することにより災害時の輸送拠点として、住民の安全・安心の確保を図る必要がある。 ③湾内が狭隘な真浦地区は、網手地区の物揚場整備により荷役機能の一部を移転し、水域利用の適正化を図る必要がある。				
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	①費用便益比 総事業 B/C=0.9 (前回評価時 B/C=1.2) 残事業 B/C=1.9 (前回評価時 B/C=1.7) ②旧家島町及び住民が参画と協働で作成した「家島町 港湾・漁港マスタープラン」を基本とした整備であり、地元の協力体制等事業執行環境は整っている。				
(3)環境適合性	網手地区東防波堤において、防波堤内のよどみ等の環境改善を図るため、防波堤内外の海水交換機能を備えたケーソンを設置する。				
(4)優先性	引き続き地元要望も強く、港内水域利用の適正化に向けた事業の優先性は高い。出来るだけ早期に事業効果を発現させるため、物揚場 (-3.5m) を先行整備し、R9年度末までに供用を開始する。				
再評価の結果	継続	左の理由	離島の港整備は、島民の生活基盤や物流・交流を支える交通基盤を構築するうえで必要不可欠であり、また費用便益以外においても多くの効果が確認されている。以上のことから本事業の必要性は高く、「事業継続は妥当」である。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）



家島港改修事業（継続：再評価〔第3回〕）

位置図



目的

離島において、港は島民の生活や産業活動を支える重要な役割を担っている。本事業では、安全・安心な離島航路の確保及び水域利用の適正化のため、真浦地区の旅客船ターミナル周辺の再整備と取扱貨物の一部を移転する網手地区の施設整備を行い、島民生活の向上、産業及び観光の活性化を図る。また、兵庫県地域防災計画に基づき真浦地区の物揚場(-3.5m)を耐震強化することにより災害時の輸送拠点として活用する。

事業概要

事業区間：姫路市家島町
 総事業費：39億円(35億円)
 内用地補償費：—
 事業期間：H18(2006)年～R12(2030)年
 (H18(2006)年～R7(2025)年)

事業概要：

【真浦地区】

物揚場(-3.5m)改良	延長	60m
棧橋改良	延長	35m

【網手地区】

物揚場(-3.5m)新設	延長	60m
物揚場(-4.0m)新設	延長	60m
防波堤新設	延長	275m
ふ頭用地	面積	6,500m ²

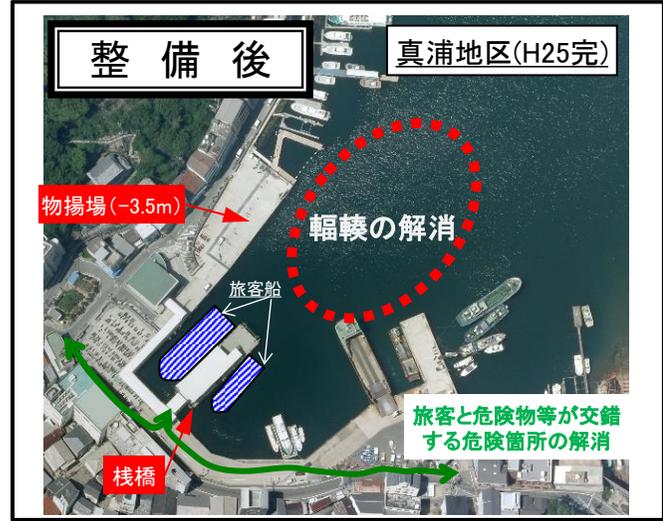
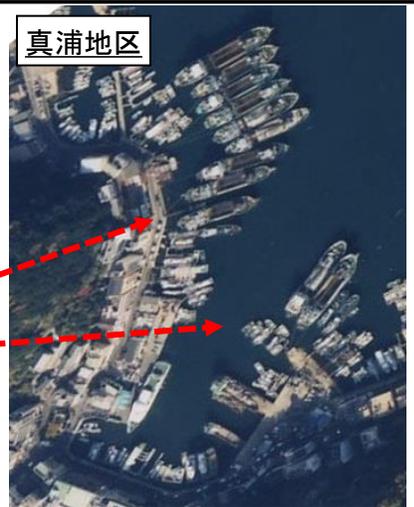
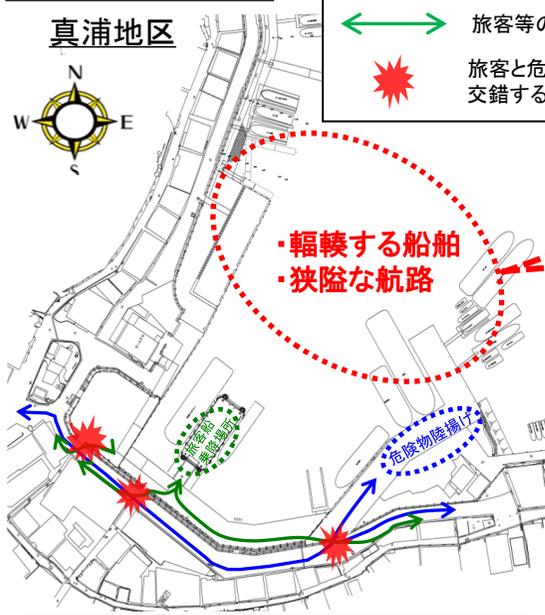
費用便益比B/C: 0.9 (残事業B/C:1.9)

事業の必要性・優先性

湾内が狭隘で多種多様の船舶が航行する真浦地区では、プロパンガス等の危険物を陸揚げしている。旅客船ターミナル再整備や新たな物揚場の整備により『船舶輻輳の解消』および『住民生活の安全・安心の確保』を図る必要がある。

整備前

- 凡例
- ↔ 危険物運搬の動線
 - ↔ 旅客等の利用者動線
 - ★ 旅客と危険物等が交錯する危険箇所



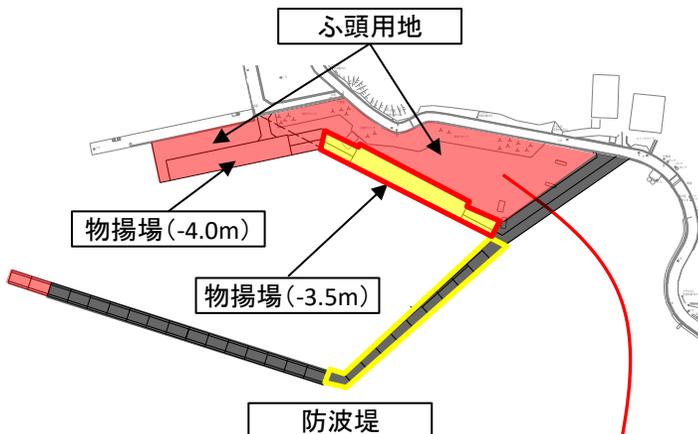
進捗状況

事業進捗平面図

①真浦地区[H25完了]

②網手地区

凡例	
■	R2 (2020) まで
■	R3 (2021) ~ R6 (2024)
■	R7 (2025) 以降



工程表

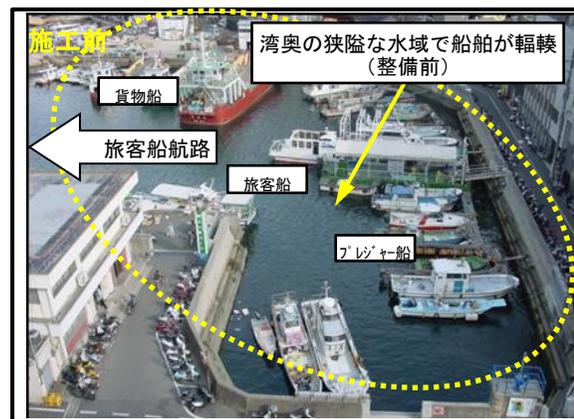
■ : 前回計画
■ : 実施・計画

物揚場(-3.5m)供用
(R10.3予定)

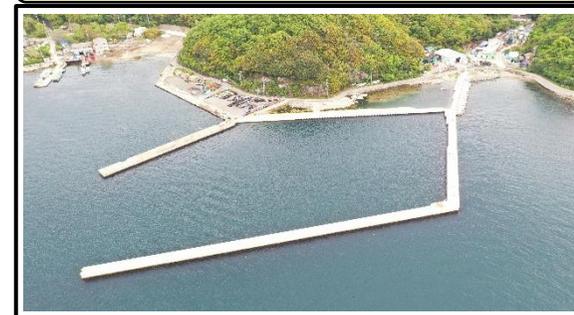
年度	H25以前	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
真浦地区																		
物揚場 (-3.5m) 改良																		
栈橋																		
網手地区																		
物揚場 (-3.5m) 新設																		
物揚場 (-4.0m) 新設																		
防波堤新設																		
ふ頭用地																		

現況写真

①真浦地区全景(施工前後)



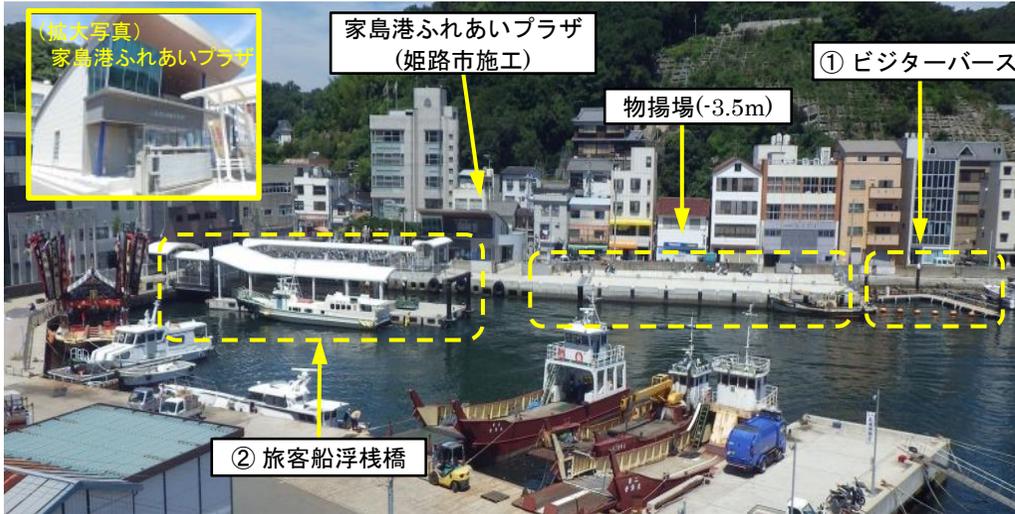
②網手地区全景(整備中)



進捗状況

真浦地区【H25整備完了】

ターミナル周辺の港湾利用状況(利便性の向上等)



② 旅客船棧橋 (バリアフリー対応)

① ビジターバス利用状況

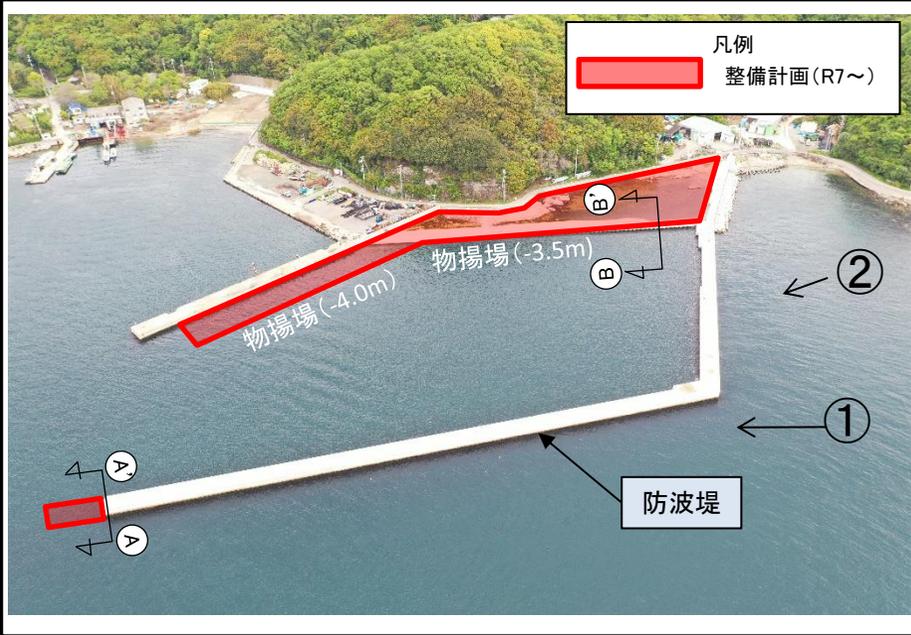


③ 物揚場(-3.5m) (耐震強化)



進捗状況

網手地区



①防波堤 上部工整備状況



②防波堤 ケーソン据付状況



物揚場(-3.5m) ブロック製作状況



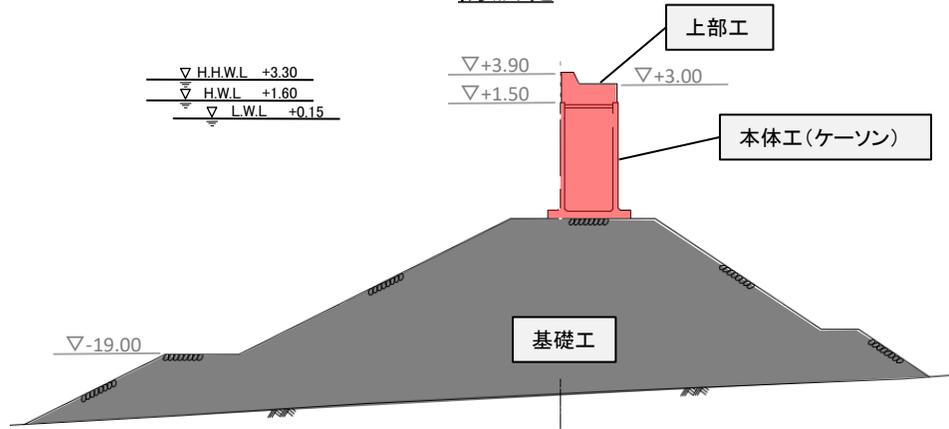
周辺環境(造船所や海苔加工場)



横断図

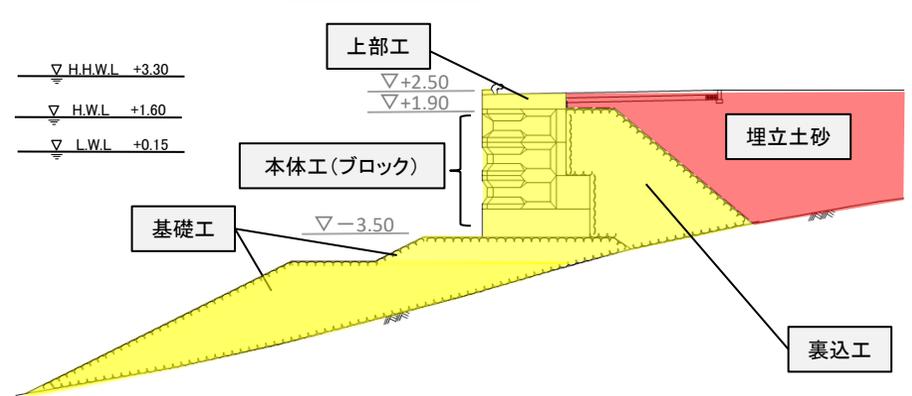
(A) - (A') 断面) D.L.(m)

防波堤



(B) - (B') 断面) D.L.(m)

物揚場(-3.5m)



凡例	
	R2 (2020) まで
	R3 (2021) ~ R6 (2024)
	R7 (2025) 以降

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
移動コスト、時間短縮便益	隣接施設から移動コスト、時間短縮による便益
運行時間短縮便益	旅客船の離発着時間による便益
待ち時間短縮便益	貨物船が岸壁の空きを待つ時間削減による便益

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名		B(便益)		C(費用)			B/C	
			便益額 (百万円)	代表的な 効果	総費用	事業費	維持管理費		
					(百万円)	(百万円)	(百万円)		
港湾	家島港	全体事業費	移動コスト、 時間短縮便益	6,095.3	時間短縮 50分→31分	7,468.6	7,043.8	424.8	0.9
			運行時間短縮便益	732.8	時間短縮 30分→27分				
			待ち時間短縮便益	255.8	待ち時間短縮 20分				
			計	7,083.9					
	改修	残事業費	移動コスト、 時間短縮便益	—	—	478.8	437.0	41.8	1.9
			運行時間短縮便益	732.8	時間短縮 30分→27分				
			待ち時間短縮便益	162.5	待ち時間短縮 20分				
			計	895.3					

(2)費用対効果に含まれない効果

離島における島民の移動や物資運搬は、全て『港』を利用する。

また離島の港整備は、島民の生活基盤や物流・交流を支える交通基盤を構築するうえで必要不可欠であり、費用便益以外においても下記の効果項目で多くの効果が確認されている。

(イメージ図)

【安定した物資運搬】
生活コストの平準化や
生活物資等の安定供給

【緊急物資の円滑な輸送の確保】
災害時の輸送拠点として活用

【雇用・所得の増大】
安定した雇用を創出し、
人口減少を抑制

【交通基盤の確保】
島民の移動手段を確保

【環境の保全】
良好な景観を形成

【観光業の活性化】
離島の自立的発展や
地域間交流の活性化

【地域活力の強化】
地域産業の維持・振興



(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目
地域社会	地域経済	安定した物資運搬
		地域活力の強化
		雇用・所得の増大
		交通基盤の確保
		観光業の活性化
	環境改善	環境の保全
	安全・安心の確保	危険物取扱いの人口密集地からの回避
		通常時の安全確保
		台風時の避難泊地の確保
		緊急物資の円滑な輸送の確保
旅客船乗降時の安全対策		

港湾整備により、生活コストの平準化や生活物資、医薬品の安定供給に寄与
港湾整備により、地域産業の維持・振興
港湾整備により、安定した雇用を創出し、人口減少を抑制
港湾整備により、島民の移動手段を確保
港湾整備により、離島の自立的発展や地域間交流の活性化に寄与
真浦地区のターミナル整備による良好な景観の形成
網手地区整備により、人口密集地における危険物の陸揚げ回避
網手地区整備により、家島港内の船舶輻輳が改善されるため、通常時に船舶が安全に運行可能
網手地区整備により、家島港内の船舶輻輳が解消されるため、台風時に船舶の避泊が可能
真浦地区の物揚場(-3.5m)を耐震化したことにより、災害時の輸送拠点として活用可
旅客船ターミナルと棧橋を結ぶ通路をバリアフリー化としたことによる乗客の安全性確保

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	旧家島町と住民等が協働により作成した「家島町 港湾・漁港マスタープラン」を基本とした整備であり、実現に向けた関係者の期待は大きい。
-------	---

参考資料

「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」の『耐震強化プロジェクト』に基づき、
震災時の輸送費削減便益等を追加計上した費用便益比の算出結果

便益(B)項目の追加

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
移動コスト、時間短縮便益	隣接施設から移動コスト、時間短縮による便益
運行時間短縮便益	旅客船の離発着時間による便益
待ち時間短縮便益	貨物船が岸壁の空きを待つ時間削減による便益



震災時の輸送費、港湾整備費用節減便益	震災時の緊急物資の輸送費、港湾整備費用の節減による便益【追加計上】
残存価値便益	供用期間終了後も残る施設の既存価値による便益【追加計上】

➤ Without時 (施設整備前)

震災時の緊急物資を
ヘリポートで輸送



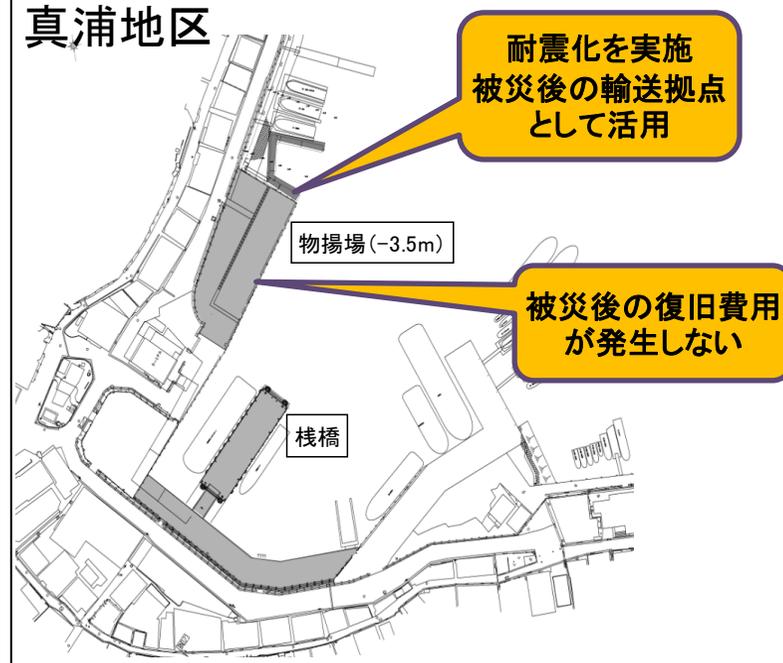
真浦地区



参考-1

➤ With時 (施設整備後)

真浦地区



③便益(B)項目の追加

評価の視点		効果項目(費用対効果の便益内容)								
移動コスト、時間短縮便益		隣接施設から移動コスト、時間短縮による便益								
運行時間短縮便益		旅客船の離発着時間による便益								
待ち時間短縮便益		貨物船が岸壁の空きを待つ時間削減による便益								
震災時の輸送費、港湾整備費用節減便益		震災時の緊急物資の輸送費、港湾整備費用の節減による便益【追加計上】								
残存価値便益		供用期間終了後も残る施設の既存価値による便益【追加計上】								
事業	事業名	B(便益)			C(費用)			B/C		
		便益額 (百万円)	代表的な 効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)				
港湾	家島港 改修	全体 事業費	移動コスト、 時間短縮便益	6,095.3	時間短縮 50分→31分	7,468.6	7,043.8	424.8	1.1	
			運行時間短縮便益	732.8	時間短縮 30分→27分					
			待ち時間短縮便益	255.8	待ち時間短縮 20分					
			震災時の輸送費、 港湾整備費用節減便益	1,057.9	—					追加計上
			残存価値便益	39.9	—					
			計	8,181.7						
	家島港 改修	残 事業費	移動コスト、 時間短縮便益	—	—	478.8	437.0	41.8	2.0	
			運行時間短縮便益	732.8	時間短縮 30分→27分					
			待ち時間短縮便益	162.5	待ち時間短縮 20分					
			震災時の輸送費、 港湾整備費用節減便益	—	—					追加計上
			残存価値便益	39.9	—					
			計	935.2						